

Japanese Committee of International Council for Small Business

ICSB 日本委員会 (JICSB) メールマガジン

第 7 号 2015 年 5 月 26 日

目次

1. 委員長挨拶
2. 事務局報告
3. ICSB 及び国際会議
4. JSBM (Journal of Small Business Management) 53(1)の紹介
編集後記

1. 委員長挨拶



JICSB メールマガジン第 7 号に寄せて

JICSB 委員長 三井逸友

(嘉悦大学大学院ビジネス創造研究科科长・教授)

JICSB 中小企業研究日本協議会も発足後丸 3 年を過ぎ、皆様のおかげをもってしっかりとがんばっております。と申したいところ、皆様のご期待にお応えするには力不足、努力不足のところが多くなり、私としてひたすらお詫びを申し上げるばかりです。そうしたなかですが、本年 8 月 24~25 日、熱海ハートピアで開催するサマーワークショップは鋭意準備中です。皆様のご参加をお待ちしております。

本年度もすでに 2 ヶ月を過ぎ、ICSB 第 60 回世界大会(UAE ドバイ)も目前であり、また秋には ACSB 第 3 回大会がマレーシアサラワク州ミリで開催予定です。このように、世界の中小企業研究と関係者の国際交流におけるアジアのプレゼンスがいつそう高まっておりますが、残念ながら日本の関わりと貢献が大きいとは申せません。日本の中小企業団体や関係機関の国際交流のうえで歴史の長い、ISBC 国際中小企業会議は国際的運営体制や大会開催等に困難が生じており、そちらも誠に気がかりでもあります。(JICSB の理事である井出氏は、ISBC の国際事務局長を長くつとめられ、また ISBC の日本組織、ISBCJ 日本中小企業国際協議会の理事長、私はその 議長でもあります)。現状が打開改善され、ICSB、ISBC とが協力しあいながら、それぞれの役割を十分に発揮できるようになることを願うばかりです。

このような、国際組織の状況はどのようであれ、国際的な交流連携や展開の重要性は、研究者のみならず、とりわけ中小企業者にとって決定的であると痛感します。もちろん、

すべての中小企業が海外事業展開をせねばならないとか、そういう意味ではありません。国内やローカルな市場にもっぱら活路を見いだすとか、諸条件が許す範囲での事業に集中するとか、それぞれのいきかたがありましょう。けれども、これだけあらゆる意味での「国際化・グローバル化」が進んできている時代に、それにいっさい目もくれることなく、企業の将来を考えようという方が無理というものでしょう。世界は、同時に、また複雑多様性からみあい、絶えず動いているのです。地域の中小企業こそ、世界に向けた販路開拓の可能性を考えるべきと、今年の『中小企業白書』も指摘しています。「売る」だけではありません。「買う」、「招く」、「協力連携する」等々さまざまな形、志向性があり得ましょう。そして常に世界の動きに注意を払い、情報を取り込み、あるいは発信していく、そこにまた自社の立場や存在意義、可能性を見いだしていく、社内人材や取引先などに世界の力を取り込んでいく、それなくして日本の中小企業の未来はないと思うのです。また、こうした事業展開や関係構築などでいっそう必要になるのは、一般的な情報収集だけではなく、「現地を自分の足で歩く、目で確かめる」経験と「顔の見える」人間同士の信頼構築であると、多くの事例が教えています。

本年1月末には、当会会員でもある米村氏（ミャンマー経済・投資センター理事長）のお誘いで、私はミャンマーに行ってきました。

<http://www.asahi-net.or.jp/~MQ7I-MTI/talk40.html>

ミャンマー企業と日本の中小企業との連携・投資の促進のための機会であり、ミャンマー関係者の熱い期待を現地で実感することができました。もちろんまだまだ困難や課題は山積していますが、それを乗り越え、両国の中小企業同士の協力と連携が進めば、共存共栄の道も開けましょう。また、こうしたアジア諸国などでは、日本の中小企業政策と企業経営の経験を知りたい、活用したいという思いもひとしおです。このイベントのカウンターパートであったミャンマー政府工業省中小企業開発局のアイアイウィン副局長とは、実は昨年ソウル ICSB で同じテーブルに座った仲でした。ミャンマー政府は中小企業法の制定に向けて取り組んでいる最中であり、この機会に開かれたセミナーでも、政策へのさまざまな期待とともに、日本の経験に関心が集まっていました。

他方で、米村氏ともご一緒した、JICA 委託のカンボジア中小企業政策推進のための調査プロジェクトが先日終了しましたが、こうした機会にはいつも、日本の経験と教訓をもっと活用してほしい、それによってそれぞれの国での中小企業の発展を実現してほしいという思いが高まります。まさしく、そこにこそ、日本の中小企業研究者の今日的使命があると痛感するのです。中小企業同士、政府機関や支援機関同士の経験交流と協力、連携の道は私たちの目の前にあります。ICSB は研究交流のみならず、政策立案者や経営実践者らの場でもあります。今秋の ACSB 第3回大会には、そうした機会も多々設定されましょう。日本からさらに幅広い方々が参加され、名実ともに国際交流と連携の場となることを、願ってやみません。

2.事務局報告



■会員状況

2014年度末(2014年12月) 74名

■2014年度決算案及び予算案

2014年度決算について港徹雄監事の監査を受けました。

2015年度予算については、会員数74名を前提に、役員改選費用を除き年度収支を均衡させることを基本として、仮予算に作成し実行しております。

決算案並びに予算案は会員によるWEB投票の対象となります。

■中小企業研究ワークショップ

2015年8月24日(月)25日(火)にハートピア熱海にて開催する予定です。詳細が決まり次第、会員の皆様にご案内いたします。

3.ICSB 及び国際学会



■ICSB

・ ICSB2015 ドバイ、UAE が6月6日～9日で開催。

・ ICSB の2015～2016年の会長選挙が5月7日まで実施。

候補者は Luca Iandoli 博士(フェデリコ2世・ナポリ大学准教授)、欧州中小企業協議会会長(2011年～現在)

・ JSBM 2014年度最優秀編集委員に Marco Cucculelli 博士(マルケ・ポリテクニク大学准教授)が選ばれる。

・ 2015年5月4日～8日は全米中小企業週間。ICSBは当該イベントを協賛。

■国際学会

応募・参加を考えられている方は、詳細を ICSBBulletin にてご確認ください。

・ 第3回 AIER-NBER コンファレンスが8月19-20日に東京大学で開催されます。論文応募は終了していますが、NBER、東大、KAIST、清華大などが関わった、

国際会議でテーマは Innovation and Entrepreneurship です。

National Bureau of Economic Research (NBER)

Asia Innovation and Entrepreneurship Assotiation (AIER)

■ Understanding and Measuring Entrepreneurial Leadership Style (pages 54-74)

Maija,R., A. E. Tarabishy, A.L. Carsrud and M. Brannback

起業リーダーシップ (Entrepreneurial Leadership) の評価基準を提案し、大学生や従業員などを対象とした質問調査を経て、有効性を確認した。

■ The Impact of Entrepreneurship Education on Entrepreneurial Attitudes and Intention: Hysteresis and Persistence (pages 75-93)

Fayolle,F. and B. Gailly

起業家教育プログラムが、起業態度 (Entrepreneurial Attitudes) 及び起業意思 (Entrepreneurial Intention)を高めるのに有効か、起業者との遭遇経験に留意して検討。

■ The Impact of Organizational Orientations on Medium and Small Firm Performance: A Resource-Based Perspective (pages 94-113)

Lonial,S.C. and R. E. Carter

中小企業において市場志向(market orientation)、起業家志向(entrepreneurial orientation)、学習志向(learning orientation)は、資源ベース理論上の資源となり、ポジショニングの優位性にどう結びつくか、郵送質問調査のデータにもとづきパス解析を行った。

■ Does Founders' Human Capital Matter for Innovation? Evidence from Japanese Start-ups (pages 114-128)

Kato,M., Okamuro,H. and Y.Honjo

創業者の人的資産 (Human Capital)の違いに伴い、製品・プロセス改革や特許取得などのイノベーションが左右されるか、日本のスタートアップ企業 389 社を対象にした実証研究。

■ The Effects of Standardization and Trust on Franchisee's Performance and Satisfaction: A Study on Franchise Systems in the Growth Stage (pages 129-144)

Chiou,J. and C. Droge

フランチャイズ・チェーンの効率的な機能のためには標準化(standardization)追求が重要だが、標準化のための投資をオーナーに促すには信頼(trust)醸成が欠かせない。そこで標準化と信頼、オーナーの満足度の関係について実証研究を行った。

■ Examining the Drivers for Franchised Chains Performance through the Lens of the Dynamic Capabilities Approach (pages 145-165)

El Akremi,A., Perrigot,R. and I. Piot-Lepetit

フランチャイズ・チェーンの業績とダイナミック・ケイパビリティの関係について、189 チェーンの実証分析を行った。

■ Nonfinancial Goals, Governance, and Dividend Payout in Private Family Firms
(pages 166-182)

Vandemaele,S. and M. Vancauteren

ファミリー企業の配当政策についてベルギーの 501 企業について実証研究を行った結果、ファミリーを重視する社会感情的要素(socioemotional objects)の影響が確認された。

■ How Do Risk Attitudes Differ within the Group of Entrepreneurs? The Role of Motivation and Procedural Utility (pages 183-206)

Block,J., Sandner,P., and F. Spiegel

起業家のリスク態度(risk attitude) が、機会活用型起業 (opportunity entrepreneur) と切迫型起業 (necessity entrepreneur) の場合で異なることを、ドイツの起業家等を対象とした質問調査を通じて確認した。

■ Information Technology Adoption in Small Business: Confirmation of a Proposed Framework (pages 207-227)

Nguyen,T., Newby,M., and M.J.Macaulay

中小企業の I T 導入度(IT adoption) と I T 活用度(IT success implementation)について米国企業を対象とした実証研究。組織要素、外部 IT 専門家の存在、IT 活用力の他に、取引先との関係 (Supplier/customer relations)の重要性が確認された。

■ Entrepreneurial Orientation, Managerial Networking, and New Venture Performance in China (pages 228-248)

Su,Z., Xie,E., and D. Wang

中国のベンチャー企業において、起業家志向(Entrepreneurial Orientation)並びに管理者の人的ネットワーク (Managerial Networking) が業績にどう影響するか研究した。

■ Heed Our Advice: Exploring How Professionals Guide Small Business Owners in Start-Up Entity Choice (pages 249-265)

Blair,E., and T.M.Marcum

外部の法律専門家と会計専門家が果たす役割について創業間もない中小企業を対象に研究。

■ Networking Ability and the Financial Performance of New Ventures: Moderating Effects of Venture Size, Institutional Environment, and Their Interaction (pages 266-283)

Sigmund,S., Semrau,T., and D.Wegner

人的ネットワーク (Networking ability) が起業間もないベンチャー企業の業績にいかなる影響を与えるか、についてドイツとブラジル 2 国で実施した実証研究。企業サイズ、ベンチャーを巡る制度環境の優劣を考慮した。

■ Become Independent ! The Paradoxical Constraints of France's
“Auto-Entrepreneur” Regime (pages 284-301)

Levratto, N., and E. Serverin

フランスの個人事業家制度 (Auto-Entrepreneur) の目的、現状を踏まえ実質的なワーキング・プーアの温床になっていないか、などの課題を検討した。

編集後記



JSBM の 53(1) に加藤雅俊会員・岡室博之会員の創業者の人的資産についてのご研究が掲載されています。(加藤敦)

最近、ICSB での報告や国際共同研究をする中で、欧米の先端的な理論と日本の中小企業研究のリンクする部分が見えてきました。その部分を国際的に発信していきたいと考えている今日この頃です。(山本聡)